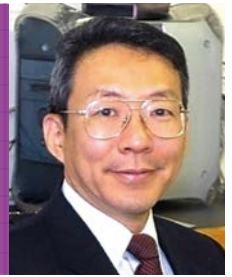


【研究シーズテーマ】

工学的手法を用いた 錐体外路症状の定量化

 生命学部 生体医工学科 教授 **松林 弘明**

Keyword

パーキンソン病／統合失調症／錐体外路症状／定量化



【研究シーズの概要】

神経難病であるパーキンソン病は振戦、無動、固縮などの錐体外路症状を特徴とする神経変性疾患です。また、統合失調症の治療中に薬物の副作用として錐体外路症状を呈することが高頻度に見られます。私たちは、工学的手法を用いて、これらの錐体外路症状の定量化を実現しようとしています。



【新規性・独自性・従来研究(技術)と比べての優位性】

- 臨床症状の重篤度の定量的判定が可能です。
- 薬物治療の効果判定を定量化することが可能です。

【産業界での展開・用途】

- 診断や治療効果判定の医療機器として展開が期待できます。

連絡・問合せ先

 広島工業大学 研究支援機構 〒731-5193 広島市佐伯区三宅2-1-1
 (事務窓口: 研究・地域連携支援部) TEL:082-921-4222 FAX:082-921-8963
 URL <https://www.it-hiroshima.ac.jp/for-research/office/> E-mail kyo-kiko@it-hiroshima.ac.jp